

埼玉県 退職校長会 会報

題字・清水章夫

第160号

平成29年4月

会報こそ全会員を結ぶ心の絆

埼玉県退職校長会副会長 武藤文子



の気持ちで一杯です。加えて支えている支部・班の配布係や郵送係の方々のお力添えこそ有り難いことです。

春爛漫の中、新年度が始まり世の中が躍動しています。本会は昭和三十九年に結成され、五十余年の歴史と業績を兼ね備え十支部・五十七班会員数二千七百名を超える大所帯となっています。

本会の目的は、会員の親睦と福祉の増進、埼玉県教育の振興への寄与にあります。

この使命達成のため、役員はじめ各方面からご尽力頂き総力を挙げて精進しています。

会の活動を広く会員へ周知しているのが、広報部が発行している会報と捉えています。

毎号の編集・発行に尽力されている係の皆様には、感謝

組織的にしつかりしている

本会では三千名を超す会員の一人ひとりまで、繋がりが出来ています。これは単に配布という行為だけでなく、その折々に会員諸氏とお会いし言葉交わすことが絆を結ぶ大事なことだと考えます。

私共の退職女性校長会では会員が県下各地に分散のため郵送に頼らざるを得ないのですが、それでも会報が届くとメッセージを送ってくれる会員がいて嬉しく感じています。

体調の関係や家族の介護、緊急の用事等で研修会に参加出来なくても、会報を通して理解できると喜んでいきます。

ホームページの導人やニュースレターで情報提供されませんが、高齢化社会を迎え益々会報は心の拠り所となります。内容も教育への提言、ボランティア活動、会員の消息、健康づくり、趣味や歴史探究

- ① 巻頭言
- ② 理事会報告
- ③ いまを生きる
- ⑩ 定期総会案内
- ⑪ 一人一言
- ⑬ 長寿会員
- ⑭ 物故会員
- ⑮ 研究調査報告
- ⑯ 文芸

やってみませんか……

大里支部長 蜂須 栄



など退職後の豊かな生き方や知恵工夫が詰まっています。その上、県内各地の自然の風景や生活体験・習慣が伺え心が癒され沢山の栄養を頂いた気持ちです。

私達は改めて、会報の持つ意味を考え、感謝の気持ちをこめて、仲間同士の語り合いに会報の話題を広げ、その輪が重なり合いだんだん大きく広がる様に、会員同士の絆を強めていきたいと思えます。

は先発社を抑えて何年も勝ち続けていた。私は、短期間にこれほどの成長を遂げたホンダの創始者、本田宗一郎とはどんな人なのか興味を引かれて、ホンダに係る何冊もの本をあさった。以下、今も記憶に残るいくつかを紹介する。

CVCエンジン アメリカ合衆国が排気を規制する「マスクリー法」を定めたとき、車業界は「クリアは無理」と反応したという。が、間もなくホンダは「副燃焼室」という技術をもって世界で最初にこれをクリアした。

「やってみませんか……」と求めている「五気筒エンジン」の開発を宗一郎が提案すると、技術者達は「五気筒は回るはずがない」と一斉に反対した。宗一郎は「やってみませんか、何を言うか」と怒鳴り散らし、自ら先頭に立って研究室に入り、時にはスパナを振り上げて技術者を激励したという。初代インスパイアはこのようにして世に出た。五気筒車の商品化は他にあまり類を見ないという。

宗一郎の下、藤沢武夫という専務がいた。藤沢は「オヤジが作るものは必ず売れる」、宗一郎は「藤沢は必ず売ってくれる」と言っていたという。「売れなかったとしたら、俺の力不足」と責任は自らに向け、互いに信頼が厚かった。私の管理職のころ、ホンダはリーダーシップの手本を示して励ましてくれた。先見もって事に備えているか。児童生徒や教員に「やってみませんか」あきらめさせていないか。学校も、校長と教頭の二頭立て。二頭の気が合えば、馬車はうまく走れる。